

ロータリー100周年

2005年6月16日 第763号



金澤北ロータリークラブ



ROTARY CLUB OF KANAZAWA-NORTH

金沢のまちづくりと大学

佃 一成



都市は、まず安全で快適でなければならない。都市は楽しく賑わいのある空間でなければならないし、何よりも個性的でなければ都市とはいえない。

都市の個性の核心は、文化であり、歴史、伝統である。

金沢は、文化のまち、歴史と伝統のまちとして全国的、

世界的に知られる。人に人格があるように都市には都市格があるが、金沢には高い都市格がそなわっている。

しかし、金沢の市民や行政が文化・伝統の価値を重視するというとき、それは美術や工芸、すなわち物に対象化された文化・伝統に偏しているように思えてならない。

都市が人を育てる

私は、金沢はもっと芸能の普及、発展に力を入れなければならないと考えている。ヨーロッパの主な都市は、必ずその中心に立派なオペラハウスやコンサートホールを有しており、市民が日常的に気軽に演劇や音楽を鑑賞することができる。金沢を名実ともに国際的文化都市とするために、私はかねてから、浅野川演舞場（仮称）の早期設置をよびかけている。

工芸とならんで、あるいはそれ以上に、生身の人間に担われ鑑賞者に直接つたえられる文化、伝統が重要だと思うのである。社会病的な犯罪が増加傾向をみせるなど、都市が病みつつある今日、人との直接の対面でしか得ることのできない他者への共感や自己に対する深い洞察の能力こそ、もっとも大切にされるべきなのである。

また、楽器や道具、衣装の製造をはじめとする芸術関連産業の発展は、都市経済を量的にも質的にも豊かなものにしてくれる。

現在の金沢が大学を都市の外に出してしまい、学生が都市の文化や生活に接する機会を提供していないことを憂えている。私が金大生だった頃（1962年卒業）、キャンパスは金沢城内にあり、学生の下宿もまちなかにあった。講義が終われば喫茶店や居酒屋で、学生同士の、学生と教師との人間的なふれあいがあった。学生は特別なこととしてではなく、普通に学生生活を送っていれば自然とまちの人々のくらしと営業に日々接することができたのだ。現在の学生の多くは、下宿、大学、バイト先といった点を線で結んだ生活をしているが、私たちの時代、学生は金沢の「面」で生活していたのである。

都市での面的生活は、とくに文系の学生にとって、生きた学問の土台づくりになる。まちづくりに学生の創意が生まれる。「いい街で学生生活を送ることができた」と

いう卒業生が増えれば、その後輩たちが金沢に集まってくる。

金沢大学を、せめて文系学部の一部だけでも、ふたたび金沢城内にもどすべきだと思う。

都市のホスピタリティーと都市交通

かつての金沢大学同様、「お城の大学」として世界的に知られるハイデルベルク大学では、工学部などは川の対岸の新キャンパスに移転したが、文系学部はまちなかに残している。ハイデルベルク大学は1386年創設の長い歴史を有する大学であるが、「大学なくして都市はなし」「都市なくして大学はなし」という理念が市民に共有されている。大学は都市の歴史と文化に学び、都市は大学を活用するという共生関係が何世紀もの間、確固としたものとして引き継がれている。そして、まち全体が、学生に対する高いホスピタリティーに満たされている。

学生に対するホスピタリティーという観点から金沢を見直したとき、最重要の課題のひとつに都市交通の問題がある。角間に移転した金大をはじめ、多くのキャンパスが郊外や山の中に位置しており、交通の便が甚だ悪い。そもそも金沢の交通体系全体が、自家用車とバスに過度に依存している。45万の人口を抱えている都市で、主な交通手段が自家用車とバスだけということは、ヨーロッパでは非常識に属することである。

交通問題の解決策として近年、LRTの導入が議論されているが、賛成しがたい。いちど失った路面電車を現代的な装いで復活させるという発想そのものが、金沢の現実とかみあっていない。ここまでモータリゼーションが進んでしまった以上、自家用車利用は否定できず、これ以上のクルマ依存をやめ、クルマと共存できる公共交通システムを構想する必要がある。

私は、IMTSを全国にさきがけて導入することを、金沢の都市交通政策の重点として提唱したい。IMTS (Intelligent Multimode Transport System) とは、専用車線区間では連結し、コンピュータ制御による無人運転で列車として走り、一般道では切り離し、各車両が独立したバスとして有人で運行されるというものだ。LRTとふらっとバスの長所を兼ね備えており、金沢にふさわしい新交通システムであると考えている。

まず、社会実験をかねて、兼六園下から旭町を経由し金沢大学へつながる路線を実現して、大学へのアクセシビリティを高めることが望ましい。逐次IMTSの路線を増やしながら、あわせて中心部での虫食いの的な駐車場化の進行をくい止め、駐車場を計画的に配置していく必要がある。

IMTSの導入と拡大が、都市のアメニティーの向上、大

学に対するホスピタリティーの向上の決定打になると思われる。

企業活動とまちづくり

なぜ金沢は大学を都市の外に出してしまったのか？なぜ金沢は、都市の動脈ともいべき都市交通に新交通システムを導入するのが遅れているのか？——つきつめれば、まちづくりの哲学や理念が市民の中でまだ十分に熟成されていないということであろう。私たちは、市民意識を高揚させるためのイベントも必要だと考えて、浅の川園遊会に毎年とりくんでいる。

駅西開発をはじめ市内各地で開発プロジェクトが華々しく進められていた頃、私が住んでいる尾張町から浅野川界隈にかけて、「開発に取り残されてしまった」といった声が住民の間から少なからず聞こえてきた。しかし、浅野川が流れ、卯辰山に抱かれ、寺町や茶屋街があり、泉鏡花の文学のあるこの界隈こそ、実はもっとも金沢らしい場所なのだ。このことをあらためて認識し、文化的なまちづくりにつなげていこうと始めた浅の川園遊会は、今年で18回目を迎え、当初は3万人ほどであったお客様も20万人を超えるまでになっている。

浅の川園遊会に限らず、地元の文化や個性に着目したまちづくりの取り組みは、大野や柿木畠など市内各地にひろがりつつある。学生がこうした取り組みに参加すれば、すばらしい学習の機会になるだろう。

私自身、第1回からずっと浅の川園遊会のお世話をさせていただいているが、金沢にはまちづくりに取り組む経済人、経営者が多い。なぜ経営者がまちづくりに取り組むのか。金沢がよいまちであってこそ、“Made in Kanazawa”に高い価値が付与される。今日、どのような都市で活動するかは、企業にとって決定的に重要な意味をもっているのである。

おかげさまで弊社の製品は金沢・石川以外の土地でも好評を得ており、いまでは東京がいちばん大きな市場になっている。東京での販売や全国展開のためには東京に本社ごと移転したほうが効率的なように思えるかもしれないが、金沢の材料をつかった金沢での佃煮づくりにこだわりつづけることが大切だと考えている。近隣市町から工場移転の誘致を受けたこともあるが、石川県では金沢市でだけ課税される事業所税を負担してでも、金沢で活動しつづけることにこだわりたいのである。

職場訪問

5月26日(木) 会員の勝田浩之住職の光巖山月心寺を訪ねた。例会を終え松魚亭のバスで向う。参加会員24名。まず本堂に案内され、お寺の歴史など説明を聞く。説明の後、読経、米沢真二副会長、濱井弘利幹事の焼香。後、位牌堂前の襖絵、蓮池白鷺図(当会二塚長生会員作)を觀賞、説明を聞く。幸い天気も良く露地に出て、腰掛待合、雪隠を見学、仙叟宗室の墓所に手を合せ、茶室、直心庵4帖半逆勝手を見て、広間、暁雲亭でお茶会。茶会には北ロータリー茶道クラブ会員による主菓子のお運びと、お世話様でした。

◎仙叟宗室と月心寺

仙叟宗室は元和8年(1622年)に利休居士の孫、宗旦(そうたん)の末子として誕生し、利休伝来の茶道の教えを受ける。

茶の湯を通して、三代藩主 利常公に仕え、150石の扶持が与えられた。利常公の亡きあとは、金沢城下の味噌蔵町に屋敷を与えられることになり、茶室臘月庵(ろうげつあん)を構えた。のちに大桶長左衛門と釜師 宮崎寒雉の指導にあたり、多くの作品が生まれることになる。金沢で約30年間を過ごした。宗室は京都に帰り、大徳寺215世伝心宗的和尚より仙叟の号を与えられた。元禄10年(1697年)1月23日、76歳にて逝去。墓所は大徳寺聚光院と月心寺に建てられている。

職場訪問参加者名

安宅雅夫、濱井弘利、磯野進吾、磯野洋明、勝田浩之、川面正雄、木村功一、木村丹二、松田忠秋、中田秀雄、中田龍一、中村芳明、大村精二、乙村舜吉、桜田鉄次、沢田光夫、汐井俊彦、高島 聡、田中廣明、横井清治、米沢真二、吉井 清、大澤久廣、小泉幸雄、広沢正美(敬称略)



第1539回例会

6月2日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

金沢大学文学部 教授 大滝幸子氏
「改善が待たれる学校教育」

2. 出欠

出席 40名 欠席 28名 出席率 58.82%
ビジター 3名

3. 来訪者(敬称略)

金沢東RC 小池田康成 二木克明
金沢西RC 澤田幸壮

4. 皆出席顕彰(敬称略)

25ヵ年 本岡三千郎
17ヵ年 磯野洋明
5ヵ年 桜田鉄次、中村實博

5. お誕生日祝い(敬称略)

5日 長谷川壘人
6日 越野民男
15日 木村丹二

6. 結婚記念日祝い(敬称略)

2日 的場晴次
4日 越野民男

ニコニコボックス

高島君 講師に大滝先生をお迎えして。
濱井君 大滝幸子先生を講師にお迎えして。本日の講話、宜しくお願い致します。
勝田会員、職場訪問の際には、大変お世話になりました。
的場君 金沢大学、大滝先生をお迎えして、教育の現状に鋭く切り込んだお話を期待します。
勝田君 先日、職場訪問には大勢の方々が、拙寺にご来山頂きまして有難うございました。
桜田君 皆出席顕彰、有難うございます。あっと言う間の5年でした。これからもご指導お願いします。
長谷川君 誕生日のようです。ようやく50歳代に達しました。(もちろん精神年齢です)
磯野(進)君 北遊会の麻雀最終回で優勝しました。有難うございます。
合計 16,000円(累計 1,335,000円)

第1540回例会

6月9日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

ジェトロ金沢貿易情報センター 所長 山田尚史氏
「世界の中の中国と日本」

2. 出欠

出席 39名 欠席 29名 出席率 57.35%
ビジター 8名

3. 来訪者(敬称略)

金沢RC 横山英勝 首藤秀司
金沢西RC 若林昌憲
金沢南RC 辻 彰 北川泰信 浜上 満 水野義男
香林坊RC 鈴木 守

4. 幹事報告

・大阪国際大会DVD注文受付中(1,000円)
・「四つのテスト」唱和。
・本日午後6時半より、松魚亭にて新旧理事会開催。

ニコニコボックス

上田君 本日の講師に山田所長さんをお迎えして。
濱井君 講師にジェトロ金沢貿易情報センターの山田尚史所長をお迎えして。
本日午後6時30分より松魚亭にて、新旧合同理事会を開催致します。
的場君 ジェトロ山田所長をお迎えして。最新の中国情報に期待します。
合計 12,000円(累計 1,347,000円)

新旧理事会報告

平成17年6月9日(木) 出席者33名

◆ 審議事項

- ① 新会員の件
本多弘夫君(NTTファシリティーズ)
川口喜樹君(サントリー)
- ② 親睦家族旅行決算書報告
- ③ 職場訪問決算報告 5月26日(木) 月心寺
参加者24名 委員会より謝礼3万円

◆ その他



会 長: 上田 忠信 S A A: 汐井 俊彦
会長エクト: 高島 菊丸 会 計: 木村 功一
副 会 長: 米沢 真二 広報委員長: 二塚 長生
幹 事: 濱井 弘利 会 員 数: 69名
副 幹 事: 勝田 浩之 クラブ設立: 昭和48年10月3日

例 会 日: 木曜日 12:30~13:30
例 会 場: 松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事 務 局: 金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882
E-mail:k-kitarc@aqua.hokuriku.ne.jp